令和７年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　志村第一小　学校

■児童・生徒の学力の状況

〈全国学力・学習状況調査の結果から〉
〇国語、算数ともに全国平均とほぼ同じで東京都の平均正答率を下回っている。特に国語の「説明文」、算数の「分数」「割合」において課題が顕著であった。

〈リーディングスキルテストの結果から〉
〇照応解決、推論、イメージ同定、具体例同定は全国平均より高い。一方、係り受け解析、同義文判定と主語・述語など言語事項に関わる部分に課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

〇表やグラフの読み取りや観察・実験で気づいたことを言葉や図で表現することが苦手な児童が多い。
〇語彙や言語事項の定着が十分でなく、書く力の育成が課題である。特に文章の書き出しや構成に悩む児童が多く、自分の考えを筋道立てて表現する力を高める必要がある。
〇活動への参加意欲はあるが、それが学びにつながりにくい児童が多く、授業内容への理解が浅いまま進んでしまう傾向がある。

＜問題解決型・探究型の学習活動や体験活動の重視＞
◯どの教科においても児童が自ら問題を発見し、その解決方法を模索する過程を通じて深い学びを得る活動が積めるようにする。これにより児童が実社会で直面する複雑な問題に対処する力を養う。

＜主体的・対話的で深い学びの実現に向けての教員研修＞
◯新しい教育方法や技術を理解し、実践する資質・能力が求められる。ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業を意識して実践していく。また、教員同士で経験や知識を共有し合いながら、自らの教育方法を常に改善し、児童にとってより良い学びの環境を提供できるようにする。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底、および板橋区授業スタンダードSの取組	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 生活科・総合的な学習の時間との連携
◯各教科等の授業において、共通の板書カードを用い「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを全学級で徹底して行う。 ◯校内研の実践として、スタンダードSの自己選択の部分を、国語のリーフレットづくりで児童自身が伝えたい内容を選択させる授業展開を組んだ。今後は発達段階に応じて、生活科や総合的な学習の時間をはじめ、どの教科でも取り入れられるようにしていく。	◯教科書の文や図表から読み取ったことを基にして分かったことや考えたことを相手に伝える力を高めていけるような学習活動を設定する。ペアでの伝え合いや、小グループでの発表の場面を具体的に取り入れる。	◯各教科の学びと関連させながら、実際の社会問題や地域の課題に取り組む。例えば、３年総合の生き物学習と理科の学びや５年総合の防災教育と社会科の学び等、学んだことが実生活と結びつくようにしていく。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
◯iCSの推進により学校と地域が連携し、児童の地域への愛着を醸成する授業展開を行う。確実な実施に向け、iCS委員会で全教職員と話し合う時間を設定し、具体的にどのような授業展開や題材設定ができるかを熟議する。 ◯しみず学びのエリアでめざす児童像を共有し、板橋のiカリキュラムに基づき実践する。９年間を通して、系統性・連続性を意識した指導を行うために、総合的な学習の時間を中心に計画を立てている。年間数回あいさつ運動をお互いの学校で行うことで交流を深め、互いに学び合う関係を築く。	◯総合的な学習の時間を中心に、課題を決めて、探究活動を通じて児童の興味関心を引き出しながら教科横断的な学びを実現する。 ◯SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえ、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの取組を進めることで、質の高い教育の提供を図る。 ◯児童の学習過程を支援し、自己評価や振り返りの機会を提供することで、自ら課題を発見し、解決する力を育成する。	◯オンライン教材やアプリを使い、自主的に課題に取り組めるよう各自のペースや興味に合わせた個別最適な学びを実現する。 ◯めあてや振り返りなどを共有することで、互いの学びがどのように進んでいるのかを確認し、児童同士が学習を自ら進めていけるようにしている。また、お互いの考えを参照することができる環境にすることで、多様な視点に触れ、自分の考えを深めたり、学びの方向性を見直したりできるようにする。